

令和6年度 学校経営計画

大田区立おなづか小学校

校長 酒井 敬子

I 教育目標

○よく考える子

- ・主体的に取り組む姿勢、論理的に深く考える力を身に付け、豊かに表現できる児童を育てる。
- ・学力の基礎・基本を確実に身に付けるとともに、既習事項や経験を生かして物事を発展的に考える児童を育てる。

◎思いやりのある子

- ・自己肯定感をもつとともに、他者を尊重する豊かな心を持ち、人にやさしくできる児童を育てる。
- ・異年齢、異文化等、自分以外の価値観を認め合って仲良くできる児童を育てる。

○明るくじょうぶな子

- ・心身ともに健康であることを目指し、目標をもってすすんで運動に取り組む児童を育てる。

II 目指す学校像

「明日も行こう」と思える楽しい学校 「分かった！できた！一緒に頑張れた！」

◇授業が楽しい：分かる授業・学習意欲がわく工夫された授業

◇運動が楽しい：「できた！」の実感がもてる授業・遊びの要素から技能の習得

◇学校での生活が楽しい：良好な人間関係・やりがいのある活動・認められる自分

○児童

教育目標の通り

○教職員

児童・保護者・地域から信頼され、やる気とやりがいをもって児童の教育を行う教職員

○施設

安全で使いやすく、整然と整った環境・施設

○学校全体

児童も教職員も凡事徹底（当たり前のことを徹底的に行う）することで、大きな問題や服務事故の起きない落ち着いた学級・学校

【当たり前のこと】

児童：挨拶をする・勉強をする・掃除をする・感謝をする・悪いことをしたら素直に謝る

目標に向かって行動する 等

教職員：危機管理意識を高くもつ（児童トラブル、保護者対応、服務関係）・社会人としての

マナーを守る・報、連、相の徹底をする。（管理職へは特に）

Ⅲ 学校経営目標

1 【予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成】

- *課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成
- *主体的に考え、行動し、協働していく力の育成
- *情報活用能力の育成

① 令和6・7年度 大田区教育研究推進校の取組（不登校対策・不登校未然防止）

校内研究を授業力向上のための自己研鑽の場と捉える。常に授業改善を図ることにより、児童の基礎学力を定着させ、人間関係形成力や自己肯定感、自己有用感を育む。

- ・授業改善：スモールステップ・自力解決時間の設定・最後までやり遂げる経験がある授業作り
⇒教師主導だけではない授業
- ・基礎学力の定着：ドリル学習や小テストを確実に رفتり、家庭学習を定着させたりすることで、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（「知識・技能」児童の8割が80点以上）
- ・人間関係形成力の育成：友達と関わり合いながら学習に取り組む。友達と力を合わせて、自治的活動を行う。（話し合い活動・係活動・集会活動・委員会活動・クラブ活動・縦割り活動等）

② 区独自教科「おおたの未来づくり」の実施による STEAM 教育の推進

- ・変化の激しい社会の中で、こどもたちが、未来を拓き地域を支える人となるために必要な「創造的な資質・能力」の育成を目指す。

【知識及び技能】

- *探究と創造を行き来する学習の課程において必要な、知識及び技能
- *ものづくりや地域の創生に関わる概念形成

【思考力・判断力・表現力など】

- *情報を集め整理・分析してまとめたことを基に、試行錯誤してコンセプト設定、デザイン、創造・発信する力

【学びに向かう力・人間性など】

- *自分と他者のよさを生かして、主体的に取り組もうとする態度
- *よりよい未来社会を創造しようとする態度
- ・5, 6 学年を対象とし、児童が実社会で活躍する方々と共に、地域の特色を生かして、創造し探究しながら「ものづくり」や「地域の創生」にチャレンジする。
- ・1～4年の間に、「おおたの未来づくり」の学習に取り組む基礎を育てる。

③ タブレット端末等の活用

- ・授業に積極的に ICT を活用し、児童の情報活用能力の育成を図るとともに、児童が分かりやすい授業を展開し、学力の向上を目指す。
- ・週に3日、月に10日以上タブレット端末を活用する。

④ キャリアパスポート等の効果的な活用

- ・キャリア教育を推進する。自らの学習状況やキャリア形成を見直すために、「目標設定・実践・振り返り」のプロセスを記録したキャリアパスポートを作成し、新たな目標に向かってチャレンジする力を育てる。

2 【世界とつながる国際都市おおたを担う人材の育成】

*英語力の向上とコミュニケーション能力の育成

*郷土の伝統・文化の尊重と、異なる文化・価値を理解しともに生きる態度の育成

*SDGs 未来都市大田区の実践

① 英語授業の充実

- ・ALT を活用した授業や英語カフェの実践を通して、児童が英語を用いてコミュニケーションを図る場面を増やす。
- ・タブレット端末を活用し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能に関する個別最適な学びを充実させる。

② 道徳教育・人権教育の推進

- ・特別の教科 道徳を、年間35時間（1年生は34時間）確実にいき、物事を多角的・多面的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- ・他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。（人権啓発作品展の活用）

③ 環境教育の推進

- ・環境問題を考える「きっかけ」として、全校でエコキャップ回収活動を行い、環境問題を自分事として考える意識を醸成していく。

3 【一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成】

【自分らしくいきいきと生きるための学びの支援】

*健やかな体の育成

*特別支援教育の充実

① 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発と実践

- ・充実した学校生活を送り、登校しぶりや不登校を防ぐためにも、生活リズムを安定させることの重要性を児童や保護者に啓発する。実践のために、重点月間のアンケートや、長期休業日の「生活カード」を活用する。

② 体育学習の充実

- ・目標設定や振り返るための時間を設定したり、めあてカード等を用いて進捗状況を確認したりすることで、目標に向かって取り組み、人と関わり合いながら主体的に学ぶ態度を育てる。また、「体育嫌い」を作らないために指導方法を工夫する。

③ 体力の向上

- ・短縄跳びや持久走、朝の「フリー・ジョイ・ランニング」等、一人ひとりが目標を立てて粘り強く取り組める活動内容を考え実践させる。

④ サポートルームの充実

- ・啓発集会の取組を通して、学校全体でSRについての理解を深める。また、少人数での指導が在籍級でも生かされるように、SR教員と学級担任の連携を密にする。

4 【学校・家庭・地域の連携・協働による、地域コミュニティの核としての学校づくり】

*家庭教育の支援

*地域と連携した安全・安心な環境づくり

① 学校ホームページの充実

・本校での教育活動を広く知っていただくために、週に3回のホームページ更新を目指す。

② 家庭・地域との連携

・コミュニケーションの第一歩である挨拶を大切に、年間を通して児童・保護者・地域に働きかける。

・年間3回の「家庭学習定着週間」を確実に実施し、学校だよりやホームページ、保護者会等多様な方法を用いながら、週間後の定着を図る。

・地域の行事参加について、児童に呼びかけるとともに教員も可能な限り参加する。